

太陽と遊ぶ「PARK GOLF」

長谷 繁（幕別町企画調整課副主幹） (C)1988.7

伝えたい物語

パークゴルフは新種のスポーツというだけでなく、誕生から現在まで、伝えたい物語がいっぱい詰まっています。

過不足がないかわりに、これといった特徴のなかった道東の小さな町・幕別町で、ふとしたきっかけで生まれた新しい遊び「パークゴルフ」。発祥の町・幕別の人々自身がまずその面白さに惚れ込みました。

自分が好きなものにはつい力が入ります。遊びはやがて、公共施設や遊休地の積極的利用、商品開発、観光開発の手がかり、人や町のネットワークへと膨らんできました。好きなものはだれかに伝えたくなるのが人情というもの。幕別発の新スポーツは、今では道内外80市町村に広がりました。各地でそれぞれの町の個性や事情に合わせてアレンジしてたのしんでいます。

パークゴルフがここまで広がった要因としては、「競技志向」よりも、むしろ「コミュニケーション志向」に重きを置いたことがあげられます。同じスポーツを親・子・孫がいっしょにたのしんでいるありそうで実はなかった、家族で共有できること。思考や行動がどんどん細分化している時代だからこそ、多くの人々に受け入れられたのかもしれない。

完璧を想定すると、ついついヒステリックな統ルールを作りたいなくなってしまうますが、世代を超えて、しかもだれもがその日からたのしめるものにしたくて、できるだけ簡単にしています。ただ



し、安全とマナーには気を配って作ってあります。他のまちへおすすめる時は、その地域にマッチするようなローカル・ルールをおすすめしています。パークゴルフのバリエーション・タイプは、普及した市町村の数と同じだけあります。

パークゴルフは発展途上。だから可能性に満ちています。

公園で生まれた遊び

面白いこと見つけた。

どこで遊ぼうか。

ン。芝生がいい。

どこかに芝生はないか。

ありました。

田舎の公園は

人が遊ばずに、公園が遊んでる。

(人口が少ないのだから、当然といえば当然)

公園で始めた遊び。

だから、

PARK GOLFと名付けました。

パークゴルフは1983年(昭和58)、幕別町教育委員会の前原教育部長によって考案されました。

面白いスポーツはないかと、日本レクリエーション協会を通じて新種のスポーツ用品を取り寄せたのがそもそもの始まり。いくつか試してみて、アンテナにかかったのが「グランドゴルフ」。面白いのは確かなのだが、もっと幕別に合うようにアレンジできないかとアレンジしました。土の上は転がりすぎる。芝生なら草の抵抗で、もっと違った感触のスポーツにできるんじゃないか。などなど、模索は続きました。

公園の片隅で打ってみた。おっ、これはいけるゾ。

リングじゃなくて、本物のゴルフと同じようなカップを埋めてみてはどうだ。植木鉢で試してみる。次に町の水道屋さんに頼んでプラスチックパイプを加工して作ってみた。どうも音が今一つ物足りない。で、今度は鉄工場のオヤジさんに、鋼管の途中に円盤を入れてもらい音が反響するように改良。今では一日中、公園から聞こえてくる「カラン」という、小気味いい音はこの時生まれたのです。

しばらくの間、いろんな人に試してもらったところ、異口同音に「これはいい」と上々の反応。面白い遊びにアレンジできたのですが、次に場所が問題に。どうせやるなら18ホールは欲しくなります。幸運なことに、田舎へ行くほど1人当たりの公園面積は広がります。まずは公園の新しい使い方の実験ということで運動公園の一部を使ってみることにしました。上手にコースをレイアウトすると、1.5ヘクタールで18ホールが楽にとれます。もともと芝生広場だったのですから、カップを埋め、スタート位置を表示する看板を立てるだけでコースは出来上がり。公園にあった樹木はそのまま障害物になって、変化に富んだコースに変貌しました。小さな丘はボールが転がるラインを読むたのしさを与えてくれました。もしも思ったほど人々の評判が得られなければ、カップと看板を抜けば、また元通りの公園に戻せる。そんな気楽な気持ちで無理せず、パークゴルフは幕別で始まりました。

クラブも
MADE IN
MAKUBETSU

新しいことには、予想もしない難問がつきものです。グランドゴルフ用の道具をそのまま芝生に持ち込んで使っていたものですから、またたく間にクラブは折れ、ボールは割れてしまいました。けっしてメーカーの責任ではありません。メーカーが予想しなかった遊び方に変えたために起きた問題なのですから。

しかし、幸運は続きます。

幕別町には1919年（大正8）に日本で最初に操業を始めたベニヤ工場があり、合板に関する技術水準は業界のトップクラスを保ち続けています。その会社と協議し、耐久性にすぐれた用具を地元で開発することにしました。以来、いく通りもの試作を重ね、今日の用品のラインナップが完成しました。

【ルール】

あっ、空振りしちゃった。でも大丈夫。パークゴルフは空振りを1打に数えません。はじめての人にはうれしいルールです。向こうの穴にボールを少ない打数で入れるほどよい。パークゴルフのルールは普通のゴルフとほとんど同じです。

ルールを作るとき、ついつい細かなところまで完璧なものを求めたくなりますが、パークゴルフの場合は約束事を必要最小限にとど

めました。はじめてコースに出た その日からすぐたのしめるように、経験の有無で極端な差ができないように、ルールはやさしく（優しく・易しく）してあります。安全とマナーを重視して基本的なルールを設け、その上でそれぞれのコースに合ったローカル・ルールを作って、よりたのしい遊びになればというのが、私たちの願いです。

【コース】

- ・コースは樹木や起伏のある芝生の公園であることを原則とします。
- ・コースは9ホールを原則とし、ホールの直径は20センチを標準とします。ただし、公園が狭い場合はホールの数を任意にしてもかまいません。飛ばしすぎによる危険をなくすため、一ホールの距離は百メートルを限度として設定します。
- ・パーの数は33を標準とし36までとします。

【エチケット】

- ・プレーヤーは、常に前後左右の安全に注意を払いましょう。
- ・前の組がホールアウトするまでボールを打ってはいけません。
- ・第2打目以降はホールから遠い人から打ち、危険のないようプレーしましょう。
- ・服装は自由ですが、靴は運動靴など芝生を傷めないものをはきましよう。

【用具】

- ・クラブ、ボール、ティーを使います。ただしIPGAの承認を得たものとし、打球面に（ロフト）傾斜角度をつけるのは禁止＝ボールが高く上がらないよう、安全面の配慮です。

【プレー】

- ・ボールをスタート位置から打ち始め、ホールに入れるまでの最小の打数を競います。
- ・他の人のボールに当たってしまった時は、自分のボールはそのままに、相手のボールは元の位置に戻します。
- ・プレーの妨げになるボールは、一時的に取り除くことを求めるこ

とができます。その際、ホールに対してボールの後方にマークしておきましょう。

・ボールを紛失した時は、紛失したと思われる位置から別のボールを打つことができます（2打罰）。

・排水溝や池に落ちたボール、白杭で示してある線から外へ出たボール、コース外とされている場所に出たボール、ボールを打つことが不可能な場合はOB球とします（2打罰）。

・OB球となった場合は、OB線に入った位置から2クラブ以内の長さ以内でホールに近くない場所にボールを置いて打ちます。ただし、特設ティを設けてあるコースでは、特設ティから4打目としてプレーします。（2打目以降にOB球となった場合は特設ティを使用しません）

【その他】

・各ホールの標準打数をあらかじめ決めておき、実力差によるハンディを決めてもかまいません。

・大会やコースによって、安全に配慮した上で特別のルールを定めることはかまいません。

5年で50市町村へ

幕別町で1983年（昭和58）、18ホールで始まったパークゴルフ、今では道内外50市町村に広がりました。さらに20を超える市町村が来年度にコース設置を計画しています。既存の公園、河川敷、スキー場の緩斜面、遊休地の有効活用など、狭い日本とはいえ工夫しだいでみんながたのしめる場所はずいぶんあるのだと、あらためて実感。

・コースができている市町村

旭川市 足寄町 今金町 音更町 帯広市 音別町 上磯町 上士幌町 釧路市 札幌市 更別村 鹿追町 静内町 標茶町 士幌町 占冠村 白糠町 新篠津村 新得町 大樹町 忠類村 津別町 鶴居村 弟子屈町 苫小牧市 豊頃町 中札内村 中標津町 七飯町 二セコ町 根室市 日高町 富良野町 美咲町 東神楽町 東川町 平取町 広尾町 穂別町 本別町 幕別町 南富良野町 室蘭市 芽室町 紋別市 八雲町 陸別町 留辺蘂町 甲山町（広島県） 山ノ内町（長野県）

・コースを造成中またはつくる予定の市町村

網走市 生田原町 石狩町 浦幌町 上湧別町 北見市 士別市 白
滝村 知内町 月形町 豊田市 登別市 函館市 早来町 東藻琴
村 富良野市 鷲川町 妹背牛町 森町 一の宮町(熊本県) 大
阪市 小杉町(富山県) 広島市

[普及し始めた時期]

1983年(昭和58)5月、幕別運動公園の「つつじコース」(18ホール)からパークゴルフの普及は始まりました。

特別な普及活動をしたわけではありませんが、幕別町内に口コミで急速に広がりました。参加者がふえてコースが手狭になったため、以後コースの新設が続きます。現在では、町が既存の公園や河川敷を使って造成したものが6コース・99ホール、地域住民が自主的に造成したのが3コース・45ホール、民間開発によるものが1コース・18ホール、合わせて10コース・162ホールにもなりました。

こうして発祥の町の人々の多くが夢中になり、独自の用品開発も軌道に乗った1986頃から、積極的に町の外に向かって普及活動を展開しました。一村一品運動、町おこし村おこしの追い風に乗って、普及地域はあっという間に広がりました。一村一品運動によって生まれたものが、どちらかという食べ物に傾斜していたこともあり、マスコミをはじめとして人々の目にユニークなものに映ったのかもしれない。

私たちの予想を超えて、公園以外の利用も進みました。たとえば、志賀高原(長野県)のスキー場では緩斜面を利用してコースがつくられました。パークゴルフやパラセールなどの新しい遊びを取り入れ、夏のスキー場を活性化させようと試んでいます。すぐには利用計画のない社有地を暫定的にパークゴルフ場に使う所も現れました。遊んでいた土地で、人が遊ぶ 大きな投資をとまなわないため決定から実施までの時間差が少なくすむ、また、新たな利用計画が浮上してもすぐに原状復帰できるのが強みです。

[参加者数]

予想を超えて急激に広まったこともあって、どれだけの人が参加しているか具体的な調査はまだ行っていません。そこで、パークゴルフの専用クラブの販売本数と、講習会などの参加者数から類推してみました。今シーズン終了時にクラブの販売本数の累計がちょうど1万本になりました。この中には家族で共用している人もいますし、貸出用に使われているものも含んでいます。自分専用のクラブを使っている人、レンタル用のクラブを使っている人を合わせると、パークゴルフ愛好者は約1万5千人と見込んでいます。また、恒常的な愛好者のほか、一度でも経験した人を加えた「パークゴルフ体験者」は、総数で3万人を下らないものと思います。

これまでコースが各地で着実に設置されてきましたし、今後もかなりの数の市町村でコース新設の動きがあります。それぞれの市町村での愛好者はますます増え続けるものと予想しています。1990年までに5万人、今世紀中には地球規模の100万人のスポーツにしよう、関係者一同は明るく途方もない展望（野望!?)に胸を膨らませています。

パークゴルフ効果

【家庭が変わる】

パークゴルフは1人でもたのしいのですが、人数がふえるほどたのしさが増します。

年齢や体力によって極端な差ができないのがパークゴルフの最も大きな特徴です。こんなスポーツ、ありそうで実は今までありませんでした。お父さんと小学1年生がいっしょにプレーしました。合計の打数はお父さんの方が少ないのは当然ですが、お子さんは25メートル・パー3でホールインワンしました。1ホールだけですが、父に勝った息子のうれしそうなおことと云ったら…。けっして父親が手を抜いたわけではありません。だから、子供の感動は本物です。

初めての人でも、思い出すとニコツとしてしまうホールが一つや二つ、きっとあります。スコアが良くても悪くても、みんな明るい話題に変わります。みんなに共通の話題があると、家族はますますあたたかくなります。

【町が変わる】

パークゴルフは、家族に共通の話題を作ったのと同じように、職場や地域社会のコミュニケーションにも大きな影響を与えました。たとえば町内会の親睦会。お酒を飲むだけなら行くのがうっとおしい。カラオケの嫌いな人って意外に多い。既存のスポーツのほとんどはチームプレーが求められたり、下手だと恥をかいいたり、他人に迷惑をかける。私たちの周りにはなんだか「一生懸命のスポーツ」や、「必死に遊ぶこと」が多いみたいです。

どこか隙があって入りやすく、敷居の低いことがパークゴルフの性格です。

職場も地域社会も、いろんな人がいます。年齢も好きな遊びも違って、今まではいっしょにたのしむ「何か」が見つからなかったのだと思います。職場、町内会、PTAなどが親睦を深めようと、パークゴルフ・コンペを盛んに開いています。変わったところでは「議員を困む後援会大会」、スーパーマーケットの創業

記念謝恩大会、新婚さん大会(農協主催)なんてのもあります。こうした大会が終わった後は焼き肉とビールパーティーが恒例。さきほどもまでのプレーを肴に、またまた盛り上がります。パークゴルフは二度おいしい。

【高齢化社会へのヒント】

たのしみながら歩き、ふだん使わない筋肉を使う全身運動ですから、健康によいことはいうまでもありません。体とともに心の健康も忘れてはならないことです。本格的な高齢化社会がもうすぐやって来るといわれています。高齢化社会と上手に付き合うには、世代を超えていっしょにできることを探す、つまり共通の話題を見つけることです。

幕別の公園を一度のぞいてみてください。そのヒントを感じていただけたらと思います。

嫁と姑、もはやこの組み合わせは幕別では一般的。おじいちゃんと高校生の孫というのがポイントです。いかにもツツパッていそうなタイプで、うっすらと髭が生えてる高校生。おじいちゃんがうれしそうにパークゴルフのコツを教え、孫は素直にそれを聞いています。あの孫のとても和やかな表情が、学校でも見られるといいのですが...

【異業種とクロスオーバー】

町営国民宿舎で経営している焼肉ハウスは毎年20～30%も売り上げを伸ばし続けています。好調の原因はパークゴルフです。

スポーツをした後の食事とアルコールは、とてもおいしいものです。そして前述の「共通の話題」がますます場を盛り上げます。町営牧場で育ったサフォーク(羊)の消費も伸びました。国民宿舎に触発されたのが、民営の温泉。さっそくパークゴルフコースをつくって会員を募り、温泉の固定ファンを拡大しています。銘菓「パークゴルフ」が生まれました。コースレイアウトを模して具を配した「特製パークゴルフラーメン」、まりも羊羹をボールに見立てた「パークゴルフ弁当」も新登場。農協と郵便局がタイアップした「ゆうパック幕別版」には「パークゴルフの里・幕別」のラベルがつけました。ホクレンのスイートコーン缶詰の今年のデザインは、パークゴルフのイラストに変わりました。

他愛のない遊びをきっかけに、町民が自分の本業と、パークゴルフの好イメージとを結びつけ始めています。商品開発がクラブやボールなどの用品にとどまらず、異業種へも波及し、新しいスタイルの町づくりが芽生えてきたのです。

【町と町のネットワークング】

パークゴルフの普及を通して、今まで知らなかった町とのネットワークが、広がっています。田舎からの提案を都市が受け止めてくれたり、遠くの町から見に来てくれたり、人の交流が活発になってきました。

これまでは行政に携わる人だけが、町と町の間での交流に取り組んでいたように思います。早来町へパークゴルフを伝えたのは、幕別にある飼料会社の人でした。橋本 牧場(聖子ちゃんの生家) で、来春18ホールがオープンします。志賀高原(長野県)の人たちとも友だちになりりました。パークゴルフに一目惚れしてくれた小杉町(富山県)では、元祖幕別町よりも一足早く「町技」になりそうな気配です。

同じパークゴルフをしている。ただそれだけなのに、各地とのネットワークが私たちがなんだかとても幸せな気分になります。情報化社会だと盛んにいわれます。情報は受信するより発信するほうがたのしいのだと、私たち幕別町民はパークゴルフで知りました。

【狭い土地も工夫次第】

地上げの影響なのでしょうか、余っている土地などどこにもないように思いますが、有効に活用できる土地は意外にあります。いつも人影まばらな公園、河川敷、傾斜や凹凸のある土地、さしあたってすぐには使わない土地など、工夫しだいですぐにパークゴルフコースに変身します。約1ヘクタール(1万平方メートル)弱の広さがあれば、1コース(9ホール)がゆったりととれます。

土地を遊ばせずに、人が遊ぼう 幕別町から全国に向けて提案します。

【国際化社会へ向けて】

昨年から開催しているパークゴルフ国際大会は、実は「瓢箪から駒」です。発端はIPGAの設立にさかのぼります。新しいスポーツを提案するのなら、いっそのこと一番大きな名前にしようと勢いがついて「国際パークゴルフ協会」(Inter National Park Golf Association)にしました。国際と名付けたからには、外国の人も参加する大会を企画しなければ嘘になります。とって、小さな町に海外から参加者を招聘するほどの余裕はありません。

3人寄れば文殊の知恵。知恵者はいるものです。十勝在住の外国人のみなさんに参加を呼びかけようというアイデアが出てきました。キャッチフレーズは「ご近所サイズの国際親善」。帯広畜産大学の留学生、中国からの農業実習生、ロランC基地の人たち、英語

NEVER ENDING
STORY

PARK GOLF

塾の先生、高校の交換留学生など。これまで海外との交流が全くと
いっていいほどなかった幕別町に、夏の日、各国の言葉で歓声が
響きます。1988年の大会にはソビエト領事館の大使夫妻、サウジア
ラビアからのお客様も交えて、昨年以上に国際色豊かに開催できま
した。

この大会に参加した外国の人たちは、いずれ故国へ帰ります。い
つか日本の、北海道の小さな町での出来事をたのしく思い出してく
れたらと思います。これが、私たちが見つけた国際国際交流です。
英語ペラペラで国際人と呼べる町民はほとんどいませんが、身振り
手振りを共通語に、一年に一日だけ、幕別町は国際都市の仲間入り
をします。

どんなスポーツも、ある時期が来ると「競技志向」になりがちで
す。勝ち負けにこだわってしまいます。そんな時、そのスポーツは
私たちから少し遠くなります。パークゴルフが「コミュニティ・ス
ポーツ」であることを忘れずにいよう。スポーツには何より笑顔が
よく似合う。そのことを私たちにあらためて教えてくれるのが、パ
ークゴルフ国際大会です。

【町の歴史とともに】

1986年（昭和61）、幕別町は開基90年を迎えました。それを記
念して生まれた大会が「チャレンジ90」です。丸日かけて町内の各
コース90ホールを廻るマラソン大会です。

バースディ・ケーキのろうそくと同じように、町の誕生日を祝っ
て毎年1ホールずつふえていきます。「チャレンジいくつまで行く
べか」「この大会がなくなる時は、町がなくなる時だべさ」「幕別
もパークゴルフも永遠に不滅なんだわ」などと軽口を交わしなが
ら、のんびりパークゴルフ三昧の一日を過ごします。

町の歴史とともにパークゴルフも歳を重ねていきます。

以上のことを総じて、私たちは「パークゴルフ効果」と呼んでい
ます。パークゴルフにまつわる物語は、時とともにさらにページを
重ねます。